

岐阜農林事務所の普及活動状況 令和5年9月28日現在

今月の重点活動

■農福連携 農福連携岐阜地域連携会議研修会を開催

農林事務所は9月27日、令和5年度農福連携岐阜地域連携会議研修会を開催した。農福連携岐阜地域連携会議は、岐阜地域の農福連携の取り組みを関係機関が一体となって推進するため、農林事務所が中心となり、令和2年に設立されている。

同研修会では、県農業経営課並びにぎふアグリチャレンジ支援センター農福連携室が農福連携の施策と取り組みについて説明した後、農福連携に取り組む農業者1名と福祉サービス事業所2カ所から、「柿栽培における施設外就労（摘蕾・収穫）」、「農業者による就労継続支援A型事業所の開設」、「福祉サービス事業所の農業参入」についてそれぞれ事例報告を行った。

また、意見交換においては「農家が農福連携を知らない。農家への周知が必要」、「特別支援学校の学生も含め、皆に農業の良さ、農福連携の良さを広めていきたい」など農福連携の周知に関する取り組みの重要性、スマートグラス等のスマート農業機器の農福連携への活用の可能性について意見が出された。

農林事務所は引き続き、岐阜地域の農福連携推進に向けた情報共有と意見交換の場づくりを進めていく。

(園芸産地支援第二係)



【研修会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■岐阜地域就農支援協議会 新規就農担当者会議を開催

岐阜地域就農支援協議会は9月8日、各市町の新規就農担当者を集めた会議を開催した。同協議会は岐阜地域における新規就農者等の育成確保を目的に平成23年に設立され、JAぎふが事務局を務めている。

当日は、農林事務所から県の就農支援体制、令和4年度就農相談実績及び令和5年度就農相談状況を報告した。各市町からは就農支援の現状と課題について報告が行われた。その後の意見交換では「岐阜地域の市町と連携して話し合える機会があることは大変良いと思う。定期的な開催とし、情報交換が行えるとよい」など、関係機関連携の充実を求める声が多く出された。

農林事務所は引き続き、就農相談から就農研修、営農定着まで一貫した就農支援が行われるよう、岐阜地域就農支援協議会活動の活性化と各市町で行われる就農相談や就農計画づくりを支援していく。

(地域支援第一係)



【就農相談の様子】

■いちご 新規就農者支援

農林事務所は9月12日、JA全農岐阜いちご新規就農者研修所の研修生を対象に、本ほハウスや育苗方式、高設ベンチ等を見学し生産者から説明を受ける「施設整備に係る講義」を開催した。岐阜市、瑞穂市、本巣市の3ほ場を訪問し、それぞれの施設の特徴を学んでもらった。

農業資機材高騰の折、新規就農時の適正な設備投資が重要な課題となっており、研修生は建設する施設及び設備に関する知識をより深めておく必要がある。現地で実際に導入されているハウス、設備等を見聞きして研修



【講義の様子】

生に理解を深めてもらうことを目的に開催を企画した。

研修生は、施設、設備の使い勝手や栽培システムの長所・短所、導入にあたっての留意など生の声を先輩農家から聞くことができ、貴重な機会となった。今後も農林事務所はより良い支援を検討しながら、就農支援を継続的に行っていく。

(園芸産地支援第二係)

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 ジャンボタニシ防除剤「スクミンベイト3」の夏処理試験を実施

近年の暖冬等の影響でジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の越冬量が増加し、田植え直後の柔らかい苗が食害され、問題となっている。そこで、農林事務所では全農岐阜県本部、JAぎふ、農薬メーカーと連携し、環境負担の少ないジャンボタニシ防除剤である「スクミンベイト3」を夏季に散布することで、ジャンボタニシの越冬量を減らし、翌年の被害減少を目指した試験に取り組んでいる。



【ドローンによる薬剤散布作業】

農薬散布前の8月31日に個体数調査を実施し、9月1日に薬剤散布を行った。今後は散布後の個体数調査を継続するとともに、越冬個体数調査や翌年の被害調査を実施し、現地への普及性を確認していく。

(地域支援第二係)

■トマト ぎふ清流GAP評価制度の現地審査支援（糸貫トマト振興会）

糸貫トマト振興会は会員全員でのGAP取り組みとして、ぎふ清流GAP評価制度の団体認証取得を目指している。しかし、会員のGAP経験は、JGAP認証取得済の方から初めてGAPに取り組む方まで差が大きく、農林事務所はJAぎふと協力して、初心者を中心に振興会全体の生産活動改善に向けた幅広い支援を進めてきた。



【整理・整頓・清掃（3S）後の農薬保管庫の様子】

ぎふ清流GAP評価制度の109評価項目に基づき、書類整備や農場の運営状況について事前に確認作業を行うなかで、初めてGAPに取り組む生産者に対しては「3S活動（整理・整頓・清掃）」を確認しながら進めたところ、「コストをかけなくてもこんなに改善できる」と意見やアイデアが出されるなど、GAP取り組み意識の向上に繋がっていった。このような支援を経て、組織評価と施設評価が8月22日に、農場評価が9月7日と20日に行われ、大きな指摘もなく終了した。

今後も農林事務所はJAぎふと協力して是正指摘事項への取り組み対応を支援するとともに、GAP取り組みによる農業経営改善効果確認をしていく。

(園芸産地支援第一係)

■エダマメ 後期作型目揃会にて農薬安全使用及び異物混入対策を指導

JAぎふえだまめ部会は9月11日、JAぎふ北島出荷場において9月以降の後期作型に向けた本年度2回目の目揃会を開催し、35戸の生産者が出席した。岐阜市のエダマメは、出荷期間が4月下旬から11月中旬の長期にわたることから、年2回の目揃え会を開催している。

今年度は、農薬安全使用及び異物混入対策を徹底するため、「ぎふ清流GAP評価制度」の関連項目に基づく農場点検を、JA職員および農林事務所の普及指導員を評価員として、全農家対象に実施した。農林事務所は点検結果を取りまとめ、注意すべき箇所や具体的な改善方法につ



【整理整頓された作業場】

いて目揃い会で説明を行った。また、害虫被害も多く出ていることから、病害虫対策を徹底するよう呼びかけた。

エダマメは全国的な高温乾燥により出荷量が減少しており、当管内でも若干ながら影響を受けている。農林事務所は11月15日の出荷終了まで安定出荷できるよう支援していく。

(園芸産地支援第一係)

■岐阜市民野菜栽培研修会 地産地消運動の取り組みを支援

岐阜市農林課は9月1日、岐阜市民を対象とした「野菜栽培研修会」を開催し、50名が参加した。同研修会は、岐阜市民が農業に触れながら、環境保護の意義や安全安心な農産物づくりを学ぶ機会として、毎年春と秋の時期に開催している。

当日は、農林事務所が講師となり、「土づくり」と「安心安全で高品質な秋冬野菜栽培」をテーマに、ハクサイ、キャベツなどの栽培管理について説明した。「今年はジャガイモの出来があまり良くなかったがどうしてか？」などの参加者からの質問については、農林事務所はその状況を詳しく聞き出し、対応策を丁寧に回答するなど、参加者の管理意欲の向上に繋がるよう栽培指導を行った。



【研修会の風景】

次回は令和6年3月頃に春夏野菜の栽培についての研修会の開催が予定されている。

(地域支援第一係)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■小麦 令和6年産小麦栽培研修会を実施

岐阜農林事務所管内では、準硬質小麦である「タマイズミ」が487ha栽培されており、令和6年産は作付面積の増加が見込まれている。9月7日には、本巣地域の生産者を集めた栽培研修会がJAぎふにより開催された。

研修会では、農林事務所から令和5年産小麦の生育概要、令和6年産小麦栽培暦における前年からの変更点について説明を行った。特に、小麦の高品質安定生産に向けた重要なポイントである「ほ場準備と排水対策、適期播種」について詳しく解説した。また、現行の「タマイズミ」に代わり導入が予定されている「タマイズミR」について、コムギ縮萎縮病抵抗性等を有する等の特性を説明するとともに、品種切り替えに向けた今後の予定等について生産者への周知を行った。



【小麦収穫の様子】

今後、農林事務所では作付ほ場の準備と排水対策、適期播種作業を指導し、令和6年産小麦の安定生産とスムーズな品種切り替えに取り組んでいく。

(地域支援第三係)